

令和4年3月4日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名	特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター
-----	--------------------------

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

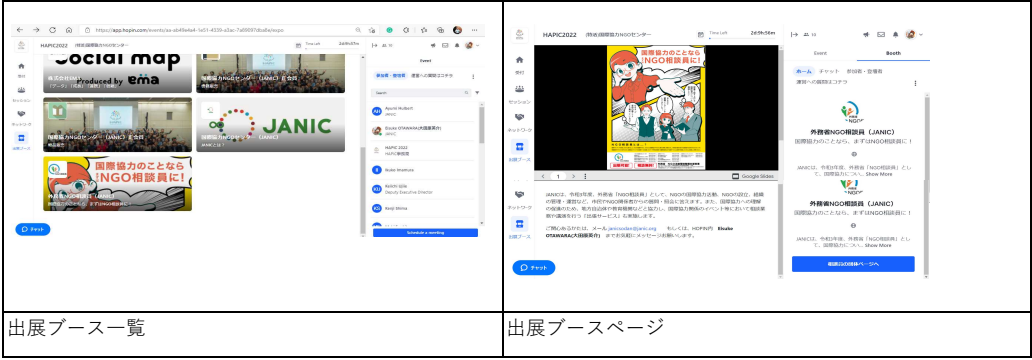
記

1 企画名および企画概要

企画名：	HAPIC－HAPPINESS IDEA CONFERENCE 2022
企画実施概要：	①実施内容：オンラインカンファレンスにて、グローバル課題解決の最前線 で活躍するスピーカー約100名による約30のセッション、出展ページ、 交流、オンライン懇親会を実施。出展ページにてNGO相談員としての広 報および相談対応を行った。 ②対象者および参加数：カンファレンス全体500名以上(速報値)（参加セ クター：NGO/NPO、政府、自治体、企業、学術、学生等） 相談件数：12件

2 出張者氏名	大田原、伊藤
3 依頼元／主催団体名	(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)
4 実施日時	令和4年2月13日（日）、14日（月）、15日（火） 13：00-18：00
5 実施場所	HOPIN（オンラインイベントプラットフォーム）
6 実施報告	《イベント参加者の相談対応》 ①NGO関係者からオンラインイベントにおける企画・運営・アプリケー ションなどについて問合せを頂き、HAPICで使用しているHOPINはじ め、JANICが比較検討した他アプリケーション情報なども共有し、今後団 体内で活用の検討を進められるお言葉を頂いた。 ②セッションの内容や関係者との議論をより深めていきたいという問合せ を頂き、セッション企画の趣旨や企画関係者の紹介、また、JANICのワー キング・グループなどで日々議論されている情報提供を行い、今後、活動 への参加をご検討頂くことになった。 ③企業関係者より、HAPICイベントサイトはじめ、JANICのWEB広報活動 についてご質問頂き、WEB製作の狙いや取組、業者情報などを共有し た。その情報を受けて、今後、自組織のWEBサイトの改善に向けて、 ターゲットや目的の議論をスタートするお言葉を頂いた。

7 写真



(写真1)

(写真2)

以上

令和4年3月4日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
難民を助ける会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 海外で働く日本人をテーマにした特別活動の授業

企画実施概要： ①実施内容
当会の活動とウガンダ・ケニアで行われてきた難民支援について説明し、
現場で支援に携わる者としての実体験を語った。

②対象者および参加人数
中学1年生80人

2 出張者氏名 宮崎 充正

3 依頼元／主催団体名 大阪市立水都国際中学高等学校

4 実施予定日時 2022年2月24日(月) 15:30～16:20

5 実施場所 オンライン

6 実施報告 「難民居住地というインフラも何もないところでも強く生きようとする人を見て勇気をもらった。」や「今後学校に通い、勉強をすることに対してのモチベーションが上がった。」などの感想が生徒から寄せられた。

7 写真

	(写真2)
Zoomで講演を行う宮崎	

(写真1)

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名：** SDGsよこはまCITY(冬)
- 企画実施概要：** 神奈川県内を中心に活動するNGOや国際協力、開発教育や国際理解教育に関連する団体が一堂に会する「SDGsよこはまCITY」において、開発教育ワークショップを実施した。また、参加者からの開発教育・国際協力に関する相談対応を行った。

2 出張者氏名

岩岡由季子

3 依頼元／主催団体名

よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会、SDGsよこはまCITYプロジェクト
※構成団体：横浜NGOネットワーク／JICA横浜／横浜市国際交流協会／神奈川大学

4 実施予定日時

2022年2月20日(日) 10時30分～12時30分

5 実施場所

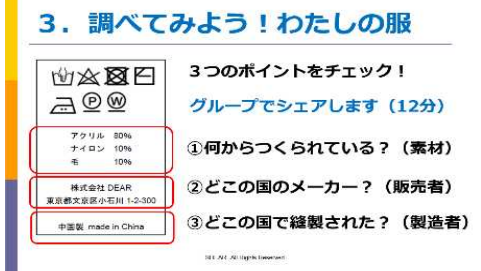
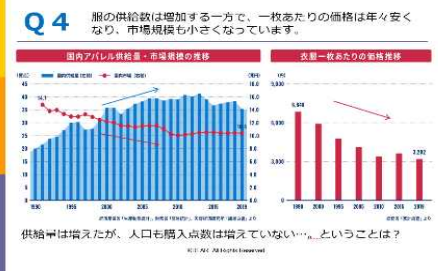
オンライン

6 実施報告

2022年3月に発行予定の『服・ファッション：開発教育アクティビティ集5』をテーマにワークショップを実施した。中学生から社会人(学校教員、会社員など)まで6名(途中出入りがあり最大10名程度)の参加があった。身の回りにある衣服(タグ)から製造工程を考えたり、クイズから環境問題や人権問題等につなげて考えた。参加者からは「服の現状というのは、まだまだみんなに知られていないと気がついたのと、変えていくべき点が多くあるなということを感じた」「CO2の排出と衣服がこれほど大きく関わっているとは思わなかった」「ディスカッションなどで他の人と話しあうなかで自分の知らなかった知識や視点、考え方を学ぶことができ、とても楽しかった」といった声が聞かれた。

参加者からの相談コーナーも設け、学校教員の方より参加型学習の進め方や、オンラインでの開発教育ワークショップの実施方法などに関して相談があった。

7 写真

	
スライド資料(抜粋)	スライド資料(抜粋)

(写真1)

(写真2)

2022年2月10日

外務省国際協力局民間援助連携室 御中

団体名

特定非営利活動法人
名古屋NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: NPOおたがいさま会議

企画実施概要: ①実施内容 「コロナ禍におけるNGOの課題と名古屋NGOセンターの取り組み」に関する講義・質疑応答を行った。

②対象者および参加人数 NPO・NGO、企業、学校関係者、社会福祉協議会、報道関係者等 40名(27団体)

2 出張者氏名

村山 佳江

3 依頼元／主催団体名

特定非営利活動法人レスキューストックヤード

4 実施予定日時

2022年2月1日 (火) 16:00～17:00

5 実施場所

オンライン

6 実施報告

・名古屋NGOセンターの活動紹介、主催のNGOスタッフになりたい人のための研修(Nたま)のコロナ禍における実施状況などを説明し、組織や事業運営に関する質疑応答を行った。
・コロナ禍におけるNGOの課題について「新型コロナウイルス感染症拡大に対する日本の国際協力NGOの対応戦略」報告書(外務省令和2年度NGO研究会/関西NGO協議会)から抜粋して共有した。NGOの駐在員の状況や災害時の活動状況などについて質問があり、報告書記載のグラフをもとに説明を行った。

7 写真

 「コロナ禍におけるNGOの課題と名古屋NGOセンターの取り組み」 日時：2022年2月1日(火) 特定非営利活動法人名古屋NGOセンター 村山佳江 今後の予定 ■2月 8日(火) アジア車いす交流センター(WAFCA) ■2月15日(火) アイキヤン ■2月22日(火) ニカラグアの会/名古屋NGOセンター	
当日発表資料	オンラインで参加者と質疑応答

(写真1)

(写真2)

以上

令和4年3月1日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
アイキャン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 第75回NPOおたがいさま会議

企画実施概要： ①実施内容
「第75回NPOおたがいさま会議」において、他NGOや企業、教育関係者に対して、コロナ禍における活動地の状況とアプローチ方法、またオンラインに形を変えて実施したスタディツアーやフェアトレード事業に関する事例を紹介した。
②対象者および参加人数
NGO関係者、企業、教育関係者等、19団体、計28名

2 出張者氏名

西坂 幸

3 依頼元／主催団体名

特定非営利活動法人レスキューストックヤード

4 実施予定日時

令和4年2月15日（火）16時00分～17時15分

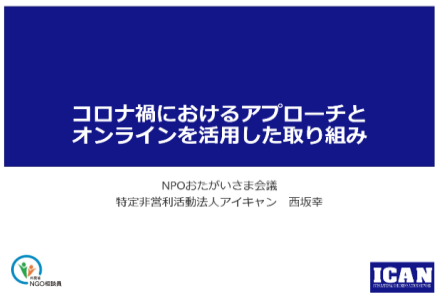
5 実施場所

オンライン

6 実施報告

第75回NPOおたがいさま会議において、「コロナ禍におけるアプローチとオンラインを活用した取り組み」というテーマで話題提供を行った。コロナ禍における当団体の活動地の状況やそれに対するアプローチ方法、また海外渡航が制限される中でスタディツアーが中止になったことを受けて、事業収入も落ち込んでいる状況と、オンラインによるスタディツアーの実施や苦勞、イベントや注文が途絶えたフェアトレード生産団体の奮闘などを、事例を交えて紹介した。参加者からは、「オンラインでのツアーの回数を増やすことで収入を増やせないのか」や「スタッフの確保や資金繰りはどうしているのか」などの質問や感想が寄せられ、NGOの運営や活動に関する関心の高さが伺えたとともに、国際協力NGOの実態に関する理解を高めることができた。

7 写真

	
本会議には、NGO関係者、企業関係者、教育関係者など多岐に渡るセクターの方々が参加し、意見交換や質問など積極的に行われた。	コロナ禍における当団体の活動例やアプローチ方法、そしてオンラインを活用したスタディツアー等の交流事業について、データを用いてご説明した。

(写真1)

(写真2)

以上

令和4年3月1日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
アイキャン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 恵那市立中野方小学校における講演会

企画実施概要： ①実施内容
恵那市立中野方小学校の「社会科」の授業において、「国際協力の分野で
活やくする人々」というテーマで講演を行った。受講したのは6年生12名お
よび教員である。フィリピン、イエメン、ジブチ等での活動経験を有する当団
体が、写真や映像、現地の子どもたちの声も交え、貧困などの地球規模の
課題とその現状とともに、NGOの価値や果たすべき役割を伝えた。

②対象者および参加人数
恵那市立中野方小学校 6年生 12名

2 出張者氏名 庭田美環

3 依頼元／主催団体名 恵那市立中野方小学校

4 実施予定日時 令和4年2月18日（金）10時30分～11時30分

5 実施場所 オンライン

6 実施報告 講演では大きく分けて、①NGOとは何か ②フィリピンの路上の子どもたち
の現状 ③フィリピンでのNGO活動 ④わたしたちにできること、の4つにつ
いて講演を実施した。②のパートでは、自分たちと同年代の子どもたちと
の、置かれている環境の違いに驚く児童もいた。授業終了後には児童全員
分の感想をお送りいただいた。「古本やゲームを寄付してみたい」「中学生・
高校生になったらボランティアに参加してみたい」「食べ物を大切にする」
「自分のできることをして、それがフィリピンの子どもたちの笑顔に繋がれば
嬉しい」などのコメントが寄せられ、先生からは「写真だけでなく動画もあり
分かり易かった」という声をいただいた。講演を通して、児童それぞれが世
界の現状について理解を深め、自分にできることは何かを考える時間を提
供することができた。

7 写真



写真や動画をいながら、フィリピンの路上の子どもたち
の現状、フィリピンにおけるNGO活動について当団
体の事例を交えて説明した。



授業の最後には質問を受け、児童からの感想の発
表もあった。特に、「自分たちが不要になったゲー
ムや漫画も寄付になる」ことへの興味が高かった。

（写真1）

（写真2）

以上

令和4年2月14日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： HAPICブレイクアウトセッション「共に生きる社会を共につくろう
～国際協力NGO×多文化共生 第二弾」での講演

企画実施概要： ①実施内容
HAPICのブレイクアウトセッションにて、「共に生きる社会を共につくろう～国際協力NGO×多文化共生」をテーマに多文化共生におけるNGOの役割についてお話した。

②対象者および参加人数
HAPIC参加者(NGO関係者が中心)、93名

2 出張者氏名 坂西 卓郎

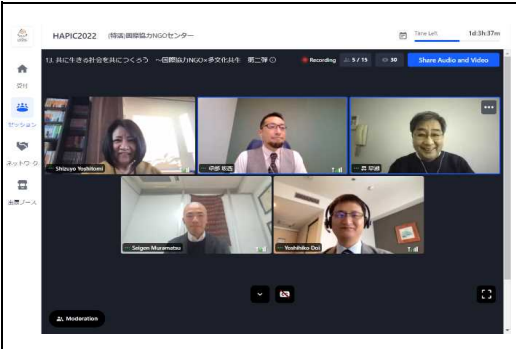
3 依頼元／主催団体名 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター(JANIC)

4 実施予定日時 令和4年2月14日 (月) 15:15～16:15

5 実施場所 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター(JANIC)

6 実施報告 日本最大の国際協力カンファレンスであるHAPICにて、NGO相談員として事例紹介を行った。具体的には令和2年度のNGO研究会「新型コロナウイルス感染症拡大に対する日本の国際協力NGOの対応戦略」の報告を活用し、国際協力NGOの潮流について説明をした。
その後、参加者間で協議を行った。主なテーマは下記であった。
・国内での多文化共生に取り組む団体と海外協力NGOの連携は、どうあるべきか？
・海外：異文化での活動経験をもつNGOの専門性は、多文化化が進国内での課題解決に、どう生かせるのか？
時間に限りがあり、議論に限界はあったが、国際協力NGOの新しい役割を提示できたと思われる。またセッション終了後、懇親会で一部の参加者と議論を深める事ができた。

7 写真

	
HAPICセッションの様子	HAPICの告知画面

(写真1)

(写真2)

以上

令和4年3月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人テラ・ルネッサンス

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 高知商業高等学校 国際理解教育オンライン学習

企画実施概要： ①実施内容 世界の子ども兵についての現状とその対処(支援)について学び、生徒に取り組める方法の解説と質疑応答

②対象者および参加人数
高知県立高知商業高等学校生徒 50名

2 出張者氏名 島彰宏

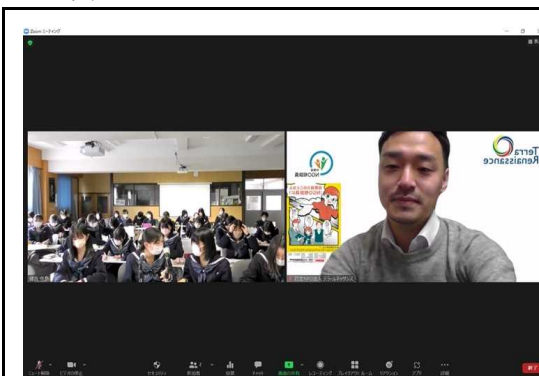
3 依頼元／主催団体名 高知県立高知商業高等学校

4 実施予定日時 令和4年2月3日 (木) 13:50 ~ 14:50

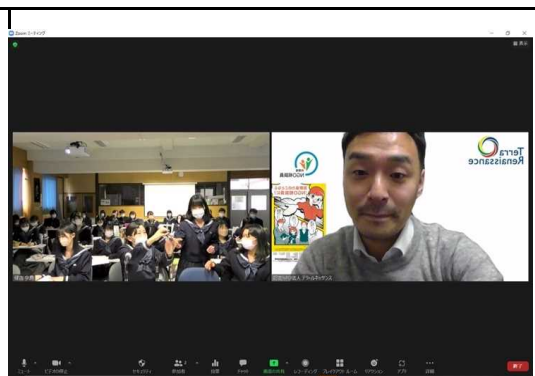
5 実施場所 オンライン

6 実施報告
(1)子ども兵の現状と、その対策(支援)について、学ぶことができました。
(2)国際協力における多様な手段(NGO/ODA)の活動等を学ぶことができました。
(3)今回で学んだことを活かし、私たちにできることを考え、行動に移して行きたいと考えています。

7 写真



高知商業高等学校生徒との対話風景(1)



高知商業高等学校生徒との対話風景(2)

(写真1)

(写真2)

以上

令和4年3月4日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：伊予市立由並小学校

企画実施概要：愛媛県がモザンビーク共和国のオリンピック・パラリンピックのホストタウンとなり、愛媛県と連携して国際理解教育を展開した小学校の3～6年生30名を対象に、オンラインで出張サービスを実施した。国際協力活動の様子やSDGsを紹介することで、国際交流や国際協力活動、SDGsへの興味・関心を深める機会とし、来年度以降もグローバルな視点を養いつつ、ESDの実践やSDGsとのつながりを持たせていけるよう工夫した。

2 出張者氏名 竹内よし子

3 依頼元／主催団体名 伊予市立由並小学校

4 実施日時 令和4年2月24日（木） 10:35～11:20

5 実施場所 オンラインでの実施

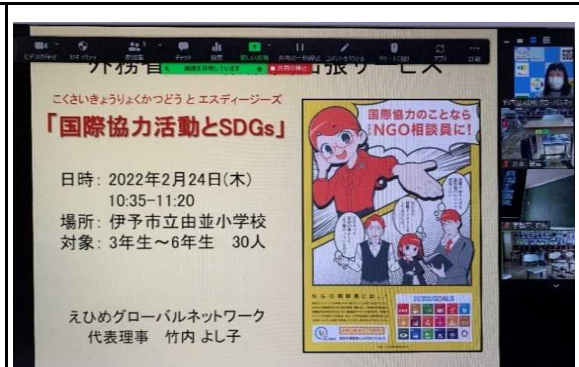
6 実施報告
参加者からは以下のような感想を得られた。
①普段自分たちが当たり前に使っている水や電気も当たり前ではない国があることを知ったから大事に使おうと思った。
②これからはSDGsのことをよく知って、身近なところから気を付けていきたい。自分にできることを探したい。
③まだまだやるべき課題がたくさんあるので、自分ができることがあれば、少しずつやっていき、支援物資などがあったら、進んで協力したい。

7 写真



オンライン授業の様子

(写真1)



オンライン授業の様子

(写真2)

以上